

NextUD JAPAN 2023

プロデュース：日本障がい者ファッション協会
9月29日(金) 13:00～15:00 [東8ホール 特設会場]

次世代のユニバーサルデザイン・ファッションショー「NextUD JAPAN 2023」 H.C.R.からファッションの未来を変える新時代のショーを発信

ファッション業界出身ではない 3人がパリコレを目指した原点

H.C.R.2023の最終日、ミライを創るファッションショー「NextUD JAPAN 2023」が開催されました。開演の1時間前から、開場を心待ちにする来場者やメディア関係者で会場周辺は賑わい、ファッションショーへの注目度や期待度の高さがうかがえました。

立ち見が出るほどの満席のなか、照明が落ち、大音量の音楽と共にオープニングムービーが流れると、場内の熱気はさらに高まりました。日本障がい者ファッション協会（以下JPFA）の3名が、スタイリッシュな衣装で登場すると、さらに大きな拍手が沸き起こりました。

ファッション業が本職ではない3人が立ち上げたJPFAは、2022年、パリコレの舞台でファッションショーを開催するという偉業を成し遂げました。代表理事の平林景氏は、「車いすユーザー当事者の『おしゃれは好きだけど、おしゃれはあきらめた』の一言に、障害があってもおしゃれをあきらめる必要はない。好きなものを着ればいい。着たいものがないなら作ればいいと思い、服作りが始まった」と、活動の原点について振り返りました。



(写真左から) 司会：平野裕加里氏、谷口藍氏、平林景氏、小川修史氏

誰もが「ワクワクして使いたくなるもの」

副代表の小川修史氏からは、「NextUD」の概念について、「障害の有無に関係なく誰もが使えるものがユニバーサルデザイン（以下、UD）で、障害の有無に関係なく誰もが『ワクワクして使いたくなるもの』が次世代のUD、つまり『NextUD』である」と提示され、この概念はファッションにおいても同じことが

いえると説明がありました。

なお、今回のショーでは、来場者のコメントが会場のスクリーンに反映される仕組みが採用され、来場者との双方向なやり取りにより、一体感のある雰囲気を生んでいました。「どんな服があったらよいか」の呼びかけに対しては、「車いすに乗ったまま着脱できるゆかた」や「車いす用のレインコート」といった声がリアルタイムで数多く寄せられ、あらためてファッションに対する期待の高さを体感しました。

会場も大いに沸いた ファッションistaとの熱い対談

JPFAの3人が着ている服もまたNextUDであり、副代表の谷口藍氏からそれぞれの服の工夫について説明がありました。中でも、平林氏が履いていたミドル丈のブーツは、筒部分に複数のジッパーが付いており、バナナの皮を剥くように、筒部分が放射状に開く仕様になっています。足に麻痺があり、足首を伸ばせない人でも着脱が可能で、見た目もエッジが効いているブーツを前に、「売って欲しい!」「かっこいい!」といった声がスクリーンに流れ、会場は大いに沸きました。谷口氏は「車いすユーザーにとって機能的で、なおかつ、ファッション性も高い服なら、障害の有無に関係なく『誰もが着たくなる服』になる」と話し、平林氏も「『これ、かっこいいな』と手に取ったものが、障害がある人にも着脱しやすいものであるというのがNextUD」と続けました。

こうしたデザインの必要性についてさらに語り合うべく、武藤将胤氏がステージに登場しました。武藤氏は、ALSの発症を機に、誰もが自分らしく挑戦できるボーダレスな社会を創造することをミッションに掲げたWITH ALSを立ち上げ、活動しています。武藤氏が考えるNextUDファッションとは将胤氏「障害者と健常者のボーダーがない服」と提案し、武藤氏の考えに強く同意した平林氏と、ファッションの未来について熱い議論が交わされました。



(写真左) 武藤将胤氏

終盤、壇上で一人、スポットライトを浴びた平林氏から、「NextUDのファッションを世界中で流行らせるには、共感の輪を広げていくことが必要。誰もがワクワクする未来を一緒に作っていくことに賛同いただけませんか」との呼びかけに、会場は盛大な拍手で応え、トークショーパートは終了となりました。

NextUD ファッションの魅力を実際立させる洗練されたモデルたちと車いすによるランウェイ

会場の興奮が最高潮に高まる中、いよいよファッションショーがスタート。幻想的な音楽に合わせて、10名のモデルが、ファッション性と機能性の両方を備えた多種多様なデザインの服を身にまとい、颯爽と歩みをすすめます。

立位でも座位でも着られる服、麻痺や身体の左右差があっても自分の体の特徴にあわせてオンとオフのカスタマイズができるアシンメトリーな服、複数の穴があり、どの穴から腕を出してもおしゃれに見えるトップス、背中ジッパーで左右に分離することで、介助者にとっての袖の通しやすさをも実現したジャケットなど、創意工夫に富んだ様々な服が初披露されました。色や生地、デザインはもちろんのこと、着脱のしやすさ、アレンジのしやすさにおいても高い機能性を兼ね備えており、すべての来場者の希望と気づきにつながったものと思われます。

モデルたちの国籍、ジェンダー、障害の有無なども多様で、NextUDファッションをさらに際立たせる圧巻のランウェイとなりました。すべてが洗練された近未来的な世界観は来場者を魅了し、ルック登場のたびに場内から驚きの声の漏れ、ワクワクした表情にあふれていました。すべてのモデルが登場し終えると、惜しめない拍手が会場を包み込み、「NextUD JAPAN 2023」は閉幕を迎えました。



鳥居百舌氏



一樹氏



ケンジーコ氏



大内秀之氏



森田かずよ氏



木下春菜氏



松本拓也氏、中村悠紀氏



Sandra氏



伊藤俊幸氏